

かたつむり通信

第 22 号



発行：NPO法人

しながわチャイルドライン

運営委員会

品川区東大井 5-23-24-203

TEL/FAX

03-5462-2868

☆しながわチャイルドラインの電話概況とオンラインへの動き☆

しながわチャイルドライン代表理事 浅川 周二

2018 年度も半期が過ぎ、前半期の常設電話概要をデーター担当でまとめました。

*全国のチャイルドライン : 総受信数 87673件(前年度:102,792 件) 15% ↓

*しながわチャイルドライン:

総受信数 2072件(前年度:3028 件) 11% ↓

発語あり 1035件(会話成立+会話不成立) (前年度:1,568 件) 34% ↓

会話成立 826件(前年度:903 件) 9% ↓

しながわチャイルドラインの総受信数は11%減少、全国でも同じように減少しています。

支援センターのオンラインチャット相談の資料では、電話の着信は1日平均:542件、

オンライン相談は1日平均:22件の数字が報告されています。

子どもへのアンケート結果では、電話よりもメールの方が良い:53, 5%(高校生では:75, 4%)でした。

こうした経過をふまえて、チャイルドライン支援センターでは来年度4月から、電話に並ぶツールとして、オンライン相談に正式に取り組み、拡げていくことが決まりました。

そして、チャット相談における特徴が以下のように報告されています。

*1回の対応時間が電話(約15分)の3倍近くかかる

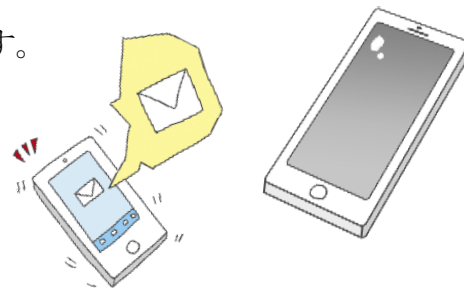
*利用者の性別は8割が女子である

*年齢は主に中高生である

*話し相手を求める雑談のようなものが少ない

*主訴が明確なものが多い

この報告からも明らかなように、電話との違いがあり、今の子どもたちが利用しやすいオンラインの必要性が高いと思われます。しながわチャイルドラインでは、これから試行の段階に入ります。電話相談に加え、オンライン事業にも力を入れ、一人でも多くの子どもが笑顔になれるように活動をしていきたいと思ひます。



☆オンライン事業の必要性☆

みなさんは固定電話を日常どれだけ活用していますか? 新入社員研修時「固定電話を使ったことはありません。」と話す新入社員がいたそうです。今や携帯電話の時代、固定電話を持たない人も増えています。私が中高生だった頃、黒のダイヤル式固定電話で長電話をして、親に怒られた記憶があります。今の子どもたちはそんな経験もないのかもしれませんが。一家に一台の電話が今や各自所有。ましてや、音声通話ではなく文字でのやりとりとなると、自室にこもり、何時間使用していても気付かれない。コミュニケーションツールは時代とともに変化をしています。手紙のやりとりから音声通話に移行、そして今のコミュニケーションツールの主流は SNS です。そして SNS は、手軽さから若者だけでなく、幅広い年代層で受け入れられました。(次ページへ続く)

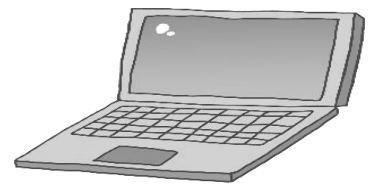
急速なインターネットの普及で「ネットのいじめ」は社会的な問題になっています。

2017年、座間の事件。この事件には高校生も巻き込まれています。ネットサーフィンをしながらふと目に入った心惹かれるフレーズ。そこにアクセスをする。そこで知り合う、優しい声をかけてくれる人、自分のことを理解してくれたと思える人、そこにのめり込んでいく。座間の事件で見えてきたことの一つとして、たくさんの人がネットを介して、誰かと繋がりを求めているということ。そして、どこに繋がっていくのか。(犯罪者と繋がる恐れもあります。今各自治体も SNS 事業に取り組み中です。)

チャイルドラインでは 2016 年からオンライン相談の試行を始めました。現在、不定期開催から定期開催に移行しつつあります。隔週で木、金曜日 16 時～21 時に実施しています。(キャンペーン期間には毎日)

また、オンライン相談の定期開催ができるよう当事業の受け手養成研修に力を入れています。

(M・K)



☆全国フォーラム in 北九州に参加して☆

11月10・11日に博多にて全国フォーラムが開催されました。今年でチャイルドラインは20周年を迎えました。

●1日目は、まず、木原雅子氏の講演がありました。木原雅子氏は「心に寄り添って聴き心で受け止める、命令・指示・禁止・回答はさげ、考えを引き出す手助けをするということが大切だ」また「頑張っている子をついつい褒めてしまいます。しかし、褒めすぎることが頑張っていなければというメッセージにもなってしまふことがある」とおっしゃっていました。声のかけ方に気を付けていく必要があると感じました。

木原雅子氏のチャイルドラインは何でも相談できる場所を電話というツールで提供しているという言葉は、子どもたちの心の居場所として活動している私たちにとってよかったと思える言葉でした。そして、何年経っても初心を忘れないことが大切なのだと改めて感じました。

次の甲斐俊介氏、中島潤氏トーク「辛さを抱えた子ども時代を振り返る」では、子ども時代にチャイルドラインに電話をした際に声が出なく何分も待っていて、「ゆっくりでいいよ、こちらからは切らないから」と言ってもらった。「自分の話に耳を傾けてくれる大人が存在する」と感じたと話されました。私たちが日ごろ気をつけていることが悩んでいる子に大きな意味を成していたのだと思えるトーク会でした。

●2日目は、分科会にて「男子の性の課題・性の多様性について」と福岡市児童相談所所長(児相に16年以上勤めている方)のお話を伺いました。

男子の性の課題では、広島県立広木小学校二川政文氏が「学校での性教育の課題」についてお話をしてくださいました。聖隷浜松病院泌尿器科今井伸医長は「男子のシモの悩み」についてでした。大切なことは、男性、女性ともにセルフプレジャーであるため、まず自分の身体から知ることだと学びました。

「性の多様性」では、LGBT 当事者団体『レインボービュー宮崎』山田健二氏の講演でした。LGBT の方は13人に1人の割合だそうです。多様な性の形がある、そして「みんなちがう、でもみんなおんなじ」。この言葉は、今の社会で受け入れていくことが重要だと思いました。福岡市児童相談所所長さんは、チャイルドラインは、「中立の立場で子どもの問題の最前線であり、最先端を聴いている。その声をどうやって社会に反映して行くのが課題」と強調されました。

目に見えない、色々な形を知ることができるチャイルドライン、1人でも笑顔の子どもたちが増えるように、社会に伝える役割の重要性を強く感じた全国フォーラム、参加できて良かった！ (Y・Y)

☆各部紹介☆

運営委員

総会で決まった方針を具体化していくのが運営委員会でしょうか？現在 10 人程が月に1度集まって話し合いをします。活動の報告と次の月、今後の活動について話し合います。議題が多く、何時も時間に追われ感がありますがチャイルドライン全体の動きはよく解ります。会員も増え問題もありますが、大勢いるから出てくる意見もあり、子ども達に添う活動を、より良くしていくためにまだまだ出来ることはありそうです。チャイルドラインは子どもから学ぶことも多くありますが、仲間から学び感動させられることも多く、運営委員一同、会の要として皆で頭と心、力を寄せ合い頑張っています。

事務局

事務局は、しながわチャイルドライン活動の中で、様々な事務的な対応をしている部署になります。

全国、都内のチャイルドラインと連携し、活動をして行く際のパイプ役も担いながら、子ども達が自分らしく生き生きと過ごせる時空間を確保するべく、品川の地に根を下ろした活動を続けています。

現在は、

◎17 期生養成研修後の対応準備

◎運営委員会の議題集約と精査

◎キントーンでの会員把握、議事録管理等

◎常設当番作成 等

突発的な対応も多々ある中、6 名の事務局員が時間の調整をしながら活動しています。

データ部

データ部の仕事は、

①しながわチャイルドラインで受けた電話の件数、時間、属性情報をあとで統計的に分析できるよう、チャイルドライン支援センターのデータベースに入力する。

②そのデータを必要に応じて取り出し集計して、分かりやすく伝えていくの 2 つです。データ入力ができるときに、少しずつ楽しんでやっています。

電話を受けて一人ひとりの子どもに寄り添うだけにとどまらず、今子どもたちが何に悩んでいるのか、子どもたちを取りまく状況がどうなっているのかをチャイルドラインならではの視点で世の中に発信していくことも私たちの大切な役割だと考えています。

広報部

私たち広報部の主な活動内容としては、しなちやいのホームページやブログの管理、リーフレットの作成、かたつむり通信の作成・発行などです。これらのことを現在は7人で分担し、自分ができる範囲で各々広報活動に尽力しています。

これまでは今より規模が小さく細々と活動していた広報部ですが、新しく 4 人の大学生を加え、フレッシュな部へと変身しました。年齢層の違いはありますがそれを越え、お互いが協力し合い、いつも和気藹々としている部です。今後もしなちやいの「今」を多くの人へ届ける為に、それまで積み重ねられた豊富な経験・知識や考えに、フレッシュな行動力や積極性という新しい風をプラスした、エネルギッシュな部へと発展し続けていきます。

◎随時部員募集中です！

会計

しながわチャイルドラインが特定非営利活動法人(NPO 法人)になったのは2010年です。それにともなって、NPO の会計基準に則した会計処理を求められるようになりました。会計監査の先生からは、会計の2年交代制を提案していただき、現在は毎年1人が交代となり、新旧の会計担当2人で作業を進めています。

しかし作業内容の煩雑さと会計担当しかできない作業もあるため、進め方はいまだ暗中模索といったところでした。そうした状況をふまえ、今年は、「作業の効率化」に取り組み、クレジットカードの作成、オンラインでの銀行振り込みや、昨年度から導入したクラウドツール Kintone での情報の共有化、さらに実務における書類作成の手間を少なくできるように、少しずつ工夫をしています。今までは、「担当者がやりやすい会計処理」でやってきていましたが、今後は会計の基本マニュアルを作成し、会計担当者だけでなく、理事、事務局、運営委員会の方々ともマニュアルを共有できれば、よりスムーズな運営ができるのではないかと考えています。

イオン部

毎月 11 日イオンでお買い物すると黄色のレシートが出てきます。

そのレシートをお客様から頂き集計すると合計金額の1%がイオンの商品券となります。去年度は年 11 回の活動で(3月には東日本大震災で被災した子どもたちへの支援となるので除く)約 11 万円分の商品券を頂きました。平均すると一回で 100 万円分のレシートが集まったこととなります。

資金はプロジェクターやインクジェットコピー用紙等、活動に必要なものを購入しました。イオンにいらっしゃるお客様はイエローレシートのことをご存知の方も多く、大声で呼び掛けなくてもさりげなくレシートを入れて下さいます。イオンの方々も集めたレシートを1枚1枚手作業で計算してくださっています。イエローレシートは地味で直接の活動とは異なります。しかし、しながわチャイルドラインの活動を支える資金の一端を担う大切な活動です。皆さまのご協力なしでは成立しません。ぜひ多くの会員の方々のお力添えをお願いいたします！

研修部

今年度新メンバー2名を迎えて現在9名で運営しています。

月1回開催の定例会議は、継続研修や年1回開催の「受け手・サポーター養成研修」などの反省を踏まえて、目的、内容、講師選定等の意見を出し合いながら次回の研修に繋げるようにしていくための会議です。特に、会員になってまだ年数の浅いメンバーからの研修体験の話は、貴重な意見としてとても参考になると共に講師との打ち合わせの時に伝えるようにしながら、研修内容に反映しています。

「受け手・サポーター養成研修」は、立正大学心理学部臨床心理学科との共催事業となって3年目。他大学の学生も含め、大学生達はしながわチャイルドライン活動の中心的な活動を担ってくれる大きな存在となっています。研修の運営をしている研修部では、受講生たちの真摯に学ぶ姿勢に接することが、楽しみでもあり、大きな責任を感じながら研修の運営をしています。

また新たな仲間を迎えるために、楽しい研修、参加して良かったと思ってもらえる研修を企画運営していきたいと思います。少々緊張しながらも、何とも明るく楽しくのんびりと、「やれる人がやる」をモットーに活動している研修部会です。

☆公開講座の感想☆

「子どもの貧困と児童虐待」 杉山春氏 (2018年10月25日)

今回の講座では、「虐待の背景」について深く考えることができました。「虐待」と聴くと子どもを育てる親を攻めがちです。しかし、それでは何の解決にもなりません。子供を育てるためには、お金と時間が必要であり、また、社会構造のために起きてしまうことに気づくことができました。

子どもを育てる親たちも子どもの時から、圧倒的な孤立、被害体験などを有してた場合があり、社会への不信感などから自分も他人も信じられなくなり、結果、この先が見通せず、無謀な行動に出てしまい悲しいことが起こることを学びました。

このようなことが起こらないために、子どもを育てる親たちへの理解が必要であり、考えて適切な声掛けをすることが重要なのではないかと思います。

親としてのプライドもあるので悩みを他人に話すのは難しいと思います。周りの人たちが、悩んでいるのは一人ではないということ、誰かに相談することは親失格ではないということをきちんと伝えることが大切だと感じました。(M・S)

岩室紳也先生の講演会「子どもの心と体の成長と性」 (2018年11月8日)

お話が終わって、私は沢山の考えが浮かんでまとまらず、そのまま帰路に着きました。感動、驚き、興奮、疑問、一言では表せない感情の扱いに困るほどの素晴らしい講演でした。講演が始まる前は、性教育の興味深い部分に触れる内容だろう、とあまり構えずにいました。ですが、その内容は考えていたもの以上でした。

もちろん性教育に必要なエッセンスをユーモアと共に語られており、とても楽しく聴いていました。しかし、それだけではありませんでした。社会が抱える様々な問題の根幹という、一見複雑そうなお話も講演に含まれていましたが、その実とてもシンプルでした。

世の中に溢れた問題の根っこは「居場所」の問題でした。自分がどこかに所属している、そんな風に思える場所が少なければ少ないほど人は寂しく、辛く、何かに取り憑かれたように夢中になる。そうして「依存症」で自分も周りも苦しんでしまう、そんなお話でした。

「依存」と聞くと悪いイメージを持つ人も多いと思いますが、周りも自分も困ってしまう「依存症」と「依存」の間にはグラデーションがあり、困ることが起こらなければ依存する事はいい事だとも岩室先生は仰っていました。確かに、誰かとの繋がりを求める人々は増えているように私も感じています。隣に座った誰かの居場所になってみる、そんなコミュニケーションもいいんじゃないかな、そう思いました。

是非また機会があれば岩室先生の講演に参加したいと思います。(Y・Y)



☆2019年6月1日岩室先生の講演会
「生きる力と大切な繋がり」(仮題) 予定

☆子どもの声に耳を傾ける☆

2018年4月から10月までに受けた電話の内訳をデータ部の方にまとめていただきました。

●**主訴は**、自分の事=359件、性=180件、学校・フリースクール=158件、家庭=86件、地域=16件、部活=15件、ネットトラブル=8件、職場=4件。

●**気持ちの上位は**、不安=104件、困惑・困っている=103件、つらい・苦しい=92件、イヤだ、葛藤・迷い・戸惑い(同率)=92件。

●**関係性の上位は**、自分自身の事=430件、友人・知人=105件、その他=80件、実母=79件、恋人=27件。

●**動機の上位は**、話を聴いてほしい=564件、答えが欲しい=169件、誰かにつながってほしい=44件、その他=24件、お試し=21件。

◎多様な人がいて当たり前の中ですが、多様であることを公表できずに辛い思いをしている子、“辛い”というSOSを伝えてもキャッチしてもらえずにいる子、様々な子がかけてきます。どんな子の気持ちもしっかり受け止めるように努めています。

ご支援ありがとうございます！ (賛助会員、ご寄附、助成金等) (順不同・敬称は省略させていただきました)

北島浩之/徳江安子/中川浩子/遠藤芙美子/米川宏一/本道秀夫/本道政夫/服部祐
田辺優美子/横井岳夫/野中君子/金子みゆき/浅川ハマ江/松澤麗子/瓜生アツコ/松澤麗子
稲塚由美子/清水佳子/井上耕一/保科うた子/木崎都志子/高野陽一/野中君子/
鐘水昌/佐波幸子/木下徹/齊藤美加/ 山口清子、匿名3名

- ・(株)花王・花王ポケットクラブ・社会福祉協議会・(社)昭和会館・(株)東京正武堂
- ・たつのこどもクリニック(角野恭子)・立正佼成会品川教会・㈱イオン・東京Ⅲゾンタクラブ
- ・清子フラスタジオ生徒会プナヘレクラブ

(2018年4月～12月現在)



☆寄付やカンパでご支援ください☆

しながわチャイルドラインは正会員費・賛助会員費・寄付金・助成金によって運営が成り立っています。

全国のチャイルドラインは現在70箇所あります。年間で約20万人の子どもたちの電話をフリーダイヤルで聴いています。子どもたちは、どこからでも聴いてほしいことを無料でかけられます。1年間の電話代の総額は約2千万円になります。全国で連携をして365日24時間を目指し、常設場所の確保や回線の増設、電話を受けるボランティアの育成を考え努力しています。



【正会員】年間6,000円(含学生) 【賛助会員】1口2,000円から

振込口座：ゆうちょ銀行 振替口座：00160-5-664278 宛先：NPO法人しながわチャイルドライン

会費・ご寄付の用途は、子どもたちに配布するカード作成費・フリーダイヤルの継続費・リーフレット・チラシ制作費、活動、運営の資金などです